

人と音を結び
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL (052)678-5310 FAX (052)678-5330
<https://clanago.com>

プレイガイド
アイチケット
☎0570-00-5310



ナゴヤ劇場ジャーナル

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MP MANAGEMENT PRO
MANAGEMENT PRO

業務内容
①舞台イベントの企画制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行

株式会社 マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市中区葵2-11-22 アバンテッジビル301
TEL: 052-508-5095 FAX: 052-508-5097
E-mail: mane-pro@mane-pro.com
HP: <http://www.mane-pro.com>



グリーン・エコー第65回演奏会
ホール・マッカートニー
Ecce Cor Meum
心の翼
ソプラノ・レクイエム
Requiem For The Living
生ける者のためのレクイエム

指揮: 出口大地
演奏: 木下美穂子・フル
オーケストラ

2025年3月20日 愛知県芸術劇場コンサートホール
15:15開演 16:00開演 17:00開演
全席5,000円、A席4,000円、B席3,000円、C席1,000円

ビートルズのポールが作曲「心の翼」を日本初演
3月20日 県芸術劇場でグリーン・エコー演奏会

東海地区を代表する混声合唱団「グリーン・エコー」が3月20日(午後4時)愛知県芸術劇場コンサートホールで「第65回演奏会」を開く。

ポール・マッカートニーが作曲した「Ecce Cor Meum」(心の翼)は古典オラトリオ(合唱十人)ケストラで演奏する宗教的な大曲(日本初演)と、米国の現役作曲家ダン・フォレストによる「Requiem For The Living」(生ける者のためのレクイエム)名古屋地区初演を披露する。

ポールは「Yesterday」の収録に弦楽四重奏を採用するなど、ビートルズ時代からクラシックに造詣が深く、近年は精力的にクラシック分野に進出している。「心の翼」は制作に8年間を費やした大

岡田利規 演出・藤倉大 作曲 異才の共演

「リビングルームのメタモルフォーシス」



「リビングルームのメタモルフォーシス」©前澤秀登

3月1日 芸術創造センターで公演

劇作・演出家の岡田利規十彼が主宰する劇団「チェルフィッチュ」現代音楽作曲家の藤倉大十ジャンルを超越したワイドなレパートリーを誇るアンサンブル・ノマド。芸術文化の先端を行く4者が繰り広げるア



東海ラジオの源石和輝アナ

源石アナ、エルムでしゃべり倒す
ラジオ・イベントなど多彩に活躍する東海ラジオの源石和輝アナウンサーが、初めてエルムのステージに立った。

ト・パフォーマンスが愛知初演される。3月1日(午後7時)芸術創造センター「リビングルームのメタモルフォーシス」にて、舞台の手に7人の奏者、その後方のリビングルームで俳優6人による物語が展開し、演劇と音楽がクロスする。やがて奏者の奏でる不協和音が、ドラマを覆い、新たな

世界観が舞台上に立ち上る。「メタモルフォーシス」は、容力カチを変えながら成長する生物。チラシには「フィクショナルな劇空間に音の粒子が混ざり合う、音楽劇」「二重倒的なスケールの世界が観客の目前に現れる」など魅惑的な意匠(じやく)が踊る。

オペラやバレエの名作を独自のシニカルな観点で再構築し異彩を放つ岡田と、社会的テーマを根底に置き、国境や音楽ジャンルを超越した活動を展開する藤倉。果たして両者の創造する「新世界」は。

全指定席4,800円、25歳以下2,500円。TEL 052(211)7552、愛知県芸術劇場。

レオタードのご購入 送料 無料
1枚からでも大丈夫

Danskate
Danstite
Weckste
Gekste

ハシ工用服の Danskate
住所 〒460-0008 愛知県名古屋市中区正木三丁目11-23
白田木町ビル5F (大橋商店の上です)
電話番号 052-265-7900
パソコン・スマホでの注文は <https://danskate.com>

創立70周年記念 松岡伶子バレエ団公演「白鳥の湖」全四幕
出演者オーディション開催
2025年3月16日(日)

日時 2025年11月30日(日)
会場 愛知県芸術劇場 大ホール
主演 小野 絢子 奥村 康祐(新国立劇場バレエ団)
指揮 稲垣 宏樹
演奏 中部フィルハーモニー交響楽団



お問合せ 松岡伶子バレエ団本部事務所(担当: 服部・木村) Mail: info@rm-ballet.com Tel 052-933-5360

オレリアと共に
Aurelia May

2025.2.23 sun open 14:00 start 14:30
charge 5,000yen+Drink (全自由席)

パリで、今人気のある現役歌手オレリア・メイ。深い愛情とホスピタリティの高さは言葉の壁を乗り越えて誰からも愛されている。ピアノ伴奏に萩原えりこを迎え、シャンソン歌手、柴田乃生子、SACHIKOと共にお届けする。

理想のシャンソン空間 Cafe Concert **エルム**
名古屋市中千種区吹上2-4-5 TEL 052-733-0085



修業をして飛び込みましたと振り返る。「運動部経験がない僕が伝えることで、野球に興味が高かった人も聴いてくれるかもしれない。メディアは媒体で、アナウンサーは仲立ち、橋渡し

「2024年度名古屋市民芸術賞」名古屋市民芸術祭2024受賞者、受賞作が次の通り決まった。敬称略。

名古屋市民芸術賞・芸術特賞▽辻真先(文芸) 同・芸術奨励賞▽柁屋三太郎(長唄三味線方)、認定特定非営利活動法人ポパイ(音楽・舞踊・美術)、白樺八声(ボイスパフォーマー)

名古屋市民芸術祭賞▽金原聡子「ソプラノリサ イタル」乙女たちの願

「喜びの声」を掲載する。本紙3月号で受賞者の

同・特別賞▽Operaaku落語オペラ「まんじゅう布」転失気(音楽部門)、なごや芝居の広場「楽屋」(演劇部門)、佐藤重衣「箏・三絃リサイタル」名古屋の遺徳(伝統芸能部門)、公益財団法人能楽財団「若獅子能」(同)。舞踊部門は該当なし。

市芸術賞・市民芸術祭賞決まる

「2024年度名古屋市民芸術賞」名古屋市民芸術祭2024受賞者、受賞作が次の通り決まった。敬称略。

名古屋市民芸術賞・芸術特賞▽辻真先(文芸) 同・芸術奨励賞▽柁屋三太郎(長唄三味線方)、認定特定非営利活動法人ポパイ(音楽・舞踊・美術)、白樺八声(ボイスパフォーマー)

名古屋市民芸術祭賞▽金原聡子「ソプラノリサ イタル」乙女たちの願

「喜びの声」を掲載する。本紙3月号で受賞者の

スタクラ5期生ガラ・コンサート
3月28・29・30日 シアターAoi
《各日200人を招待》
6期生(18~30歳)10人を募集

クラシックの若手演奏家を総合的に育成する「スター・クラシックス・アカデミア」の第5期生10人が一年間の受講成果を発表するガラコンサートが3月28、29、30日、メニコンシアターAoiで開催される。



専門家の講習を受ける受講生

28日(午後6時30分)は、ヴァイオリン松本陽輝がバイオリン・カルメンによる華麗な幻想曲ほか、ソプラノ柴田千沙都

がベートーヴェンやブッチーニのオペラリア、フルート本城茜音がリス・ト「ラ・カンパネラ」ほか、ピアノ山田紘子がリスト「ピアノ協奏曲第2番」を。29日(午後3時)は、ピアノ杉浦由奈がプロコフィエフ「ピアノソナタ第7番・戦争ソナタ」を。30日(午後3時)は、ピアノ玉置渚がベートーヴェン「ピアノソナタ第3番第一楽章ほか、ピアノ志村幸がドビュッシー「ピアノ三重奏曲ほか、打楽器の勝原平がササス「マトルスダンスほかを。

幻想美と幸福感に満たされた一夜



「くるみ割り人形」(撮影・田中 聡/テス大阪)

クラシック音楽ファンが「第九を聴かないと年が越せない」と語るように、バレエファンにとっても、クリスマスシーズンの風物詩は「くるみ割り人形」。越智インテナーショナルバレエが全幕上演した舞台は、クララと三郎の夢の世界へ旅した観客の

誰もが幸福感に浸れた一夜だった。越智久美子芸術監督のもと、オーソドックスな演出・振付と洗練された構成・展開が特徴の作品だ。折り目の正しいダンスの数々と淡い色調の衣装、簡潔な美術や照明が調和一体となって幻想美の世界へと誘う。金平糖の精と王子は越智久美子とワディム・ソロマハ。大ベテランのコンビだが、凛として清新だ。さすがに超絶技巧は封印したものの、パートナーシップと風格は抜んだ踊りの安定感と優美

フォークシンガーと特上コラボ



三舞踊団

三舞踊団の三舞踊団は、1970年ごろに始まったフォークソングブームの草分け的存在「八事裏山フォークオー

さが際立つ。観客を感動させるバレエの本質的な魅力は、速い回転や高い跳躍ではなく、ダンサーの身体に染み込んだ基本的な技巧が豊かな表現力と的確に融合することと証明して見せたのである。

少女クララの加藤萌依と夢のクララの生田絵美は、個性発揮で役の心を表出。雪の精や花のワルツの群舞は踊る喜びをにじませた躍動感が輝きを放った。ただ、男性ダンサーが少なくて勢いに欠けたのは残念だった。

日舞公演の新スタイルを提案

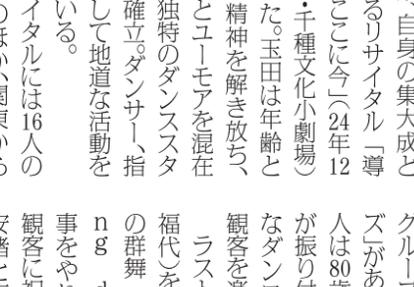


西川文紀と内田り千鶴

舞踊家、邦楽奏者で構成する「創の会」(代表・五條園美)が、ユニークな舞踊公演「続・平家物語小品集」(24年12月14~15日、名古屋能楽堂稽古室)を開

は、フォークソングの洗礼を受け、バンド活動に熱中した時代もあった。今回、伴の演奏を聴き、優れた演奏テクニックや力強い歌声、何より崇高なフォークの精神に触れた気がした。三代と共演するに相応しい魂の持ち主だと確信した。

ソロで群舞で健在ぶりを発揮



「四重奏」(撮影・服部義安)

玉田弘子リサイタル。現代舞踊の詩人玉田弘子が、自身の集大成ともいえるリサイタル「導かれてここに今」(24年12月22日・千種文化小劇場)を開いた。玉田は年齢とともに精神を解き放ち、佳しさとユーモアを混在させた独特のダンススタイルを確立。ダンサー、指導者として地道な活動を続けている。

「現代舞踊の詩人」玉田弘子が、自身の集大成ともいえるリサイタル「導かれてここに今」(24年12月22日・千種文化小劇場)を開いた。玉田は年齢とともに精神を解き放ち、佳しさとユーモアを混在させた独特のダンススタイルを確立。ダンサー、指導者として地道な活動を続けている。

《29》「カチューシャ」



1991年、ロシアのレストランで
ダークダックスの美しい
ハーモニーが大衆を魅了

「カチューシャ」は、ソ連時代の1938年に作られた歌曲だが、広い意味でロシア民謡と言え

る。《公演招待》各日200人を招待。はがきに①希望公演日②代表者の氏名・電話・住所③来場者(計4人まで)の氏名を明記、者に指定席券を送る。

《6期生募集》18~30歳を対象に、セルフプロデュース力を養うため1年間、演出家、指揮者、アナウンサーなど専門家の講習を受ける。受講は無料。来年3月末まで。

巧みだった声楽家の朗読、演技



「宮沢賢治の風」(撮影・服部義安)

治の作品を披露した。歌声に、プラノやメゾプラノといった違いがあるように、朗読にも違いがある。その違いが心地よく聴こえたのは、間

さらに感心したのが、彼女らの「演技力」だ。このこの指導、演出だと推察するが、歌っている人を見守る表情、リアクション、仲間意識がはっきり分かる。そんな、こんなが今回の朗読シアター

を格別のものにした。中でも「よだかの星」の群読には胸を打たれた。池原陽子のピアノ演奏も、いつながら巧みだった。極上の舞台を無料で提供した東文化小劇場の英断に拍手！

合が良いのである。今作は麻創が2年ぶりに書き下ろした脚本とか。テーマは「もし、人生をやり直すことが出来たら」。誰もが抱く叶わぬ願望である。物語が展開されるのは地区のコミセン。かつて劇場だった古い建物で、そこには奇妙な言い伝えがあり...

出演者10人は、ほぼ出ずっぱり。経験豊かな面々だけに取りこぼしはない。中でも間(ま)が良くナチュラルだったのが、劇中で「福の神を演じた伊予田昌子。終盤、大熱演したのが支配人役の池戸陽平である。

ラップした。麻創のパートナーでもあった石黒寛さんである。私だけでなく、出演者も観客も、そう感じたに違いない。あり得ないことが起るのドラマの世界。東の間ではあったが、私の心は浮き立ち、幸福な時は麻創と共有したのである。は亡き名優がオーバー

追悼 昨年暮れの29日、作・演出家の齋藤敏明さんが亡くなった。入院を繰り返してはいたが、まだ64歳だった。24年11月初旬に行われた「秋のそら音」(作・演出)が最後の公演になった。

「秋のそら音」は23年11月に亡くなった天野鎮雄さんを偲んで開催された「大アマチン祭」(24年

10月16日〜12月22日)の主公演だった。齋藤さんは、俳優・いのこ福代とともにアマチン祭の世話役を務め、各会場に足を運んでいた。

の演出だったと知ることで度々あった。どこかメルヘンチックで、洗練されていたのが彼の演出だった。

「ききものがたり」

一つ一つの言葉がキラキラと輝き、賢治の世界が鮮やかに立ち上がった。東文化小劇場主催の「朗読シアターききものがたり」宮沢賢治の風(1月8日・同ホール)である。俳優のこの福代と名古屋オペラ協会の声楽家12人が、朗読と歌で賢

オペラには、せりふに節をつけて歌うレチタティーヴォという奏法があるが、それを日本語の朗読に持ち込むと、何を言っているのかが分からなくなる。その点でも、今回のメンバーは優れていた。さすがに日本語にこだわる集団である。

集う劇団「STRINGS」が、第10回公演「事情」(あなたの人生変えられます)(作、演出・麻創(けい子))を上演した(24年12月13〜15日・昭和文芸小劇場)。

大アマチン祭 名古屋を愛し、名古屋の人々に愛された俳優・天野鎮雄さん(1936〜2023年)を偲び、24年10月16日から市内各所で行われていた「大アマチン祭」が12月22日で終了した。

しみじみ「人間愛に満ちた人」 名古屋を愛し、名古屋の人々に愛された俳優・天野鎮雄さん(1936〜2023年)を偲び、24年10月16日から市内各所で行われていた「大アマチン祭」が12月22日で終了した。

追悼 昨年暮れの29日、作・演出家の齋藤敏明さんが亡くなった。入院を繰り返してはいたが、まだ64歳だった。24年11月初旬に行われた「秋のそら音」(作・演出)が最後の公演になった。

追悼 昨年暮れの29日、作・演出家の齋藤敏明さんが亡くなった。入院を繰り返してはいたが、まだ64歳だった。24年11月初旬に行われた「秋のそら音」(作・演出)が最後の公演になった。

追悼 昨年暮れの29日、作・演出家の齋藤敏明さんが亡くなった。入院を繰り返してはいたが、まだ64歳だった。24年11月初旬に行われた「秋のそら音」(作・演出)が最後の公演になった。

追悼 昨年暮れの29日、作・演出家の齋藤敏明さんが亡くなった。入院を繰り返してはいたが、まだ64歳だった。24年11月初旬に行われた「秋のそら音」(作・演出)が最後の公演になった。

追悼 昨年暮れの29日、作・演出家の齋藤敏明さんが亡くなった。入院を繰り返してはいたが、まだ64歳だった。24年11月初旬に行われた「秋のそら音」(作・演出)が最後の公演になった。

舞台批評

的を射たキャストینگで成果

演劇グループZEROが40周年記念公演として「未摘花」(演出・岡田一彦)を上演した(24年12月24〜25日・愛知県芸術劇場小ホール)。「源氏物語」に登場する不細工な容姿の姫・未摘花を主人公に、劇作家・北条秀司が歌舞伎のために書き下ろした戯曲である。

この役、以前岡田が他の公演で演じたことがある。今回は役者ではなくダンサーが演じたことで、芝居に現代的な趣が加わった。主役の徳島は演技だけでなく、実際に箏の演奏も披露した。時代の考証に「？」も散見されたが、メンバーの熱演が、それを上回った。

岡田一彦、演出後記 ZEROさんで「未摘花」を演出するのは2度目になります。前回(12年前)の公演時には、冒頭で全員が顔見せという形で日舞を舞いました。それを会主の水野まさ子さんが、しっかり覚えていて「今回も」という事で、佐藤小夜子さんに声を掛けていました。

しかし元々、台本にはない役ですので、私も佐藤さんも試行錯誤しました。目立つと邪魔になるし、しかし、それなりに存在しなくてはならない。そこで彼女の繰り出すダンスを、一つ一つ剥ぎ

先ずは会場のレイアウトに驚いた。ホール全体が広大な土地と豪華な屋敷の一部のように感じられた。芝居が始まる。「かもめ」も同様だが、チェーホフの戯曲にはドラマな起伏がない。登場人物の関係が希薄で、取り留めのないせりふが繰り返されるだけなのである。

今作の主人公は屋敷の女主人(飯野久美子・おぐりまさこ)とダブルと屋敷を買った商人(憲俊)。せりふの量は相

当なものだが、二人は立って板に水のごとく語り切る。なのに、それぞれ人間性が見えてこないのは、チェーホフが意図しているから、としておく。

八代は演出に当たり「戯曲から感じたことを率直に表出すること」と言っている。彼が何を感

じたのかは定かでないが、私は今日のロシアの蛮行をイメージした。土地を奪い、人々を四散させる。チェーホフは、自

国の恥ずべき歴史を描いたのではなかったか...。家屋敷を失った女主人の絶望、屋敷に取り残された老人の哀れ。終演後の会場には寂寥感があふ

的を射たキャストینگで成果

この役、以前岡田が他の公演で演じたことがある。今回は役者ではなくダンサーが演じたことで、芝居に現代的な趣が加わった。主役の徳島は演技だけでなく、実際に箏の演奏も披露した。時代の考証に「？」も散見されたが、メンバーの熱演が、それを上回った。

岡田一彦、演出後記 ZEROさんで「未摘花」を演出するのは2度目になります。前回(12年前)の公演時には、冒頭で全員が顔見せという形で日舞を舞いました。それを会主の水野まさ子さんが、しっかり覚えていて「今回も」という事で、佐藤小夜子さんに声を掛けていました。

しかし元々、台本にはない役ですので、私も佐藤さんも試行錯誤しました。目立つと邪魔になるし、しかし、それなりに存在しなくてはならない。そこで彼女の繰り出すダンスを、一つ一つ剥ぎ

先ずは会場のレイアウトに驚いた。ホール全体が広大な土地と豪華な屋敷の一部のように感じられた。芝居が始まる。「かもめ」も同様だが、チェーホフの戯曲にはドラマな起伏がない。登場人物の関係が希薄で、取り留めのないせりふが繰り返されるだけなのである。

今作の主人公は屋敷の女主人(飯野久美子・おぐりまさこ)とダブルと屋敷を買った商人(憲俊)。せりふの量は相

当なものだが、二人は立って板に水のごとく語り切る。なのに、それぞれ人間性が見えてこないのは、チェーホフが意図しているから、としておく。

八代は演出に当たり「戯曲から感じたことを率直に表出すること」と言っている。彼が何を感

じたのかは定かでないが、私は今日のロシアの蛮行をイメージした。土地を奪い、人々を四散させる。チェーホフは、自

国の恥ずべき歴史を描いたのではなかったか...。家屋敷を失った女主人の絶望、屋敷に取り残された老人の哀れ。終演後の会場には寂寥感があふ

の演出だったと知ることで度々あった。どこかメルヘンチックで、洗練されていたのが彼の演出だった。

近年の記録によれば、未摘花を18代目中村勘九郎、光の君を坂東玉三郎が演じた。さぞや名舞台だったに違いない。ともすれば喜劇に終わってしまう作品だが、本来は未摘花の心根の優しさ、強さ、賢明さが描かれ、最後にはじわりと

花の心情をダンスで表現したり、観客の一人となってドラマを見守った。実は

この役、以前岡田が他の公演で演じたことがある。今回は役者ではなくダンサーが演じたことで、芝居に現代的な趣が加わった。主役の徳島は演技だけでなく、実際に箏の演奏も披露した。時代の考証に「？」も散見されたが、メンバーの熱演が、それを上回った。

岡田一彦、演出後記 ZEROさんで「未摘花」を演出するのは2度目になります。前回(12年前)の公演時には、冒頭で全員が顔見せという形で日舞を舞いました。それを会主の水野まさ子さんが、しっかり覚えていて「今回も」という事で、佐藤小夜子さんに声を掛けていました。

しかし元々、台本にはない役ですので、私も佐藤さんも試行錯誤しました。目立つと邪魔になるし、しかし、それなりに存在しなくてはならない。そこで彼女の繰り出すダンスを、一つ一つ剥ぎ

先ずは会場のレイアウトに驚いた。ホール全体が広大な土地と豪華な屋敷の一部のように感じられた。芝居が始まる。「かもめ」も同様だが、チェーホフの戯曲にはドラマな起伏がない。登場人物の関係が希薄で、取り留めのないせりふが繰り返されるだけなのである。

今作の主人公は屋敷の女主人(飯野久美子・おぐりまさこ)とダブルと屋敷を買った商人(憲俊)。せりふの量は相

当なものだが、二人は立って板に水のごとく語り切る。なのに、それぞれ人間性が見えてこないのは、チェーホフが意図しているから、としておく。

八代は演出に当たり「戯曲から感じたことを率直に表出すること」と言っている。彼が何を感

じたのかは定かでないが、私は今日のロシアの蛮行をイメージした。土地を奪い、人々を四散させる。チェーホフは、自

国の恥ずべき歴史を描いたのではなかったか...。家屋敷を失った女主人の絶望、屋敷に取り残された老人の哀れ。終演後の会場には寂寥感があふ

ロシアの恥ずべき歴史を描いた?



八代将弥・演出「桜の園」

を演出し大好評を得た八代将弥が担った。先ずは会場のレイアウトに驚いた。ホール全体が広大な土地と豪華な屋敷の一部のように感じられた。芝居が始まる。「かもめ」も同様だが、チェーホフの戯曲にはドラマな起伏がない。登場人物の関係が希薄で、取り留めのないせりふが繰り返されるだけなのである。

今作の主人公は屋敷の女主人(飯野久美子・おぐりまさこ)とダブルと屋敷を買った商人(憲俊)。せりふの量は相

当なものだが、二人は立って板に水のごとく語り切る。なのに、それぞれ人間性が見えてこないのは、チェーホフが意図しているから、としておく。

八代は演出に当たり「戯曲から感じたことを率直に表出すること」と言っている。彼が何を感

会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6600円(税込)。会員には小紙を毎月お届けするほか、紙面に名前を掲載(希望者のみ)。会員の関係する公演、イベント情報を優先的に掲載させていただきます。

【お申し込み、お問い合わせ】 和光写真/衛テス・大阪/関三光/Hide Dance Lab./衛ビデオ映社/松岡伶子バレエ団/エス・エー企画/Office KAN NORIKO BALLET STUDIO/かやの芸舞踊学園/春日井市日本舞踊協会/メリー・アーティスト/カンパニー/関山スタジオ 特定非営利活動法人日本室内楽アカデミー 理事長 佐々木伊利子/ミュージカルアカデミー-KAO/(一社)復曲能を観る会 フィルハーモニー・ウィーン/名古屋/明珠会 山村菜乃/川島ナナバレエ研究所/スマイル・ミュージカルアカデミー Rose Ballet Academy/越智インターナショナルバレエ/Rrバレエスタジオ 杉江瑠美/一般社団法人イタリア音楽振興会

- 私たちが「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します 青山 皆江 神谷久美子 中川 幸作 秋田昌子 北村 哲也 仲条 優理 荒川 洋子 工藤寿々弥 夏目 久子 飯田みち代 佐藤 典子 名鶴ひとみ 出田 光代 佐藤美智子 西川 長秀 伊藤 修 佐野 和美 野々山保治 伊藤 敬 澤脇 達晴 野村 祐子 伊藤 直樹 白樺 八重 花咲 市岡 稲垣 舞比 まこと 花柳 馨優 今村 早伽 杉江 瑠美 林 雅仁 内田 寿菊 鈴木 幾子 福井 啓子 内田 寿千代 鈴木久美子 淵本晴都子 内田 寿晴 鈴木 文雄 松波千津子 内田のり子 須山 仁美 松本 道子 内田のり美 角田真優美 見波 紀子 大寺 資二 高倉 麻耶 宮西 圭子 岡田 一男 武市 孝三 山口 雅子 岡崎 保彦 竹元まさ子 吉田 尚弘 小倉ひろこ 田淵友佳理 よしみゆこ 小野由加利 玉田 弘子 渡部 千枝 加藤 静子 つつみあつき 金澤 志保 手塚 淑子 蟹江 尾八 戸田美江子

Piano Recital
Cristina Nemanich

山内敦子
ピアノリサイタル

堀夏紀 ヒアノリサイタル
Debussy to Copland Vol.2
~コントラスト~

2025.3.15
電気文化ホール

Kataoka Hiroaki
片岡博明 フラウト・トランペット・ホルンリサイタル
Flaute Traverso Recital
~交歓の天生~

2025.3.15
電気文化ホール

上原宏の
☆音楽☆
聴き歩き



年末恒例の愛知ロシア音楽研究会「ロシア民謡万華鏡」(24年12月14日・電気文化ホール)。ピアノが丸山晶子、佐藤恵子、原田

なじみ深い民謡を多彩な演奏で

ロシア音楽研究会

綾子。音楽はソプラノ・真美子、メゾソプラノ・木村洋子、寛子、テノール永井秀司、フルート・寛孝也の計8人で例年より少なめで、全体にスッキリした構成になった。

声楽の4人が「トロイカ」を歌って幕開け。ソロのほか、ピアノ連弾によるチャイコフスキー「50のロシア民謡」から7曲など、知ったメロディーがさまざまな形で聴けて楽しい。

クサヴァー・モーツァルトやベートーヴェンの作品で、二人がロシアに興味を持っていたことが分かった。最後には定番の「赤いサラファン」を、寛子の歌から、丸山と佐藤の連弾につな

シューマンの熱い思いを名演で
レベルの高い演奏だった。1838年は、シューマンとクララの愛が深まった時期。桑野郁子のピアノが「幻想曲」と「クライスレリアーナ」の冒頭部分で、シューマンの熱い思いを伝えた。

確かな技量で幻想を演出

ピアノ 伊藤わか奈

年の瀬も押し迫った「伊藤わか奈ピアノリサイタル」(24年12月26日・電気文化ホール)。テーマの「幻想」的な雰囲気包まれた。



「幻想曲」に続いて「ベートーヴェン」ピアノソナタ第13番「と14番・月光」ともに曲名に「幻想曲風ソナタ」とあり、その通りの正統的な演奏で聴かせた。

室内楽集団レーベインムジックが、シューマン室内楽全曲演奏会の第7回「シヨパン1838」(24年12月24日・電気文化ホール)を開催、今回も



「弦楽四重奏曲第3番」ヴァイオリンのビルマン良月光(まゆみ)と篠原智香、ヴィオラの石川園恵、チェロの高木が、パランスよく生き生きとしたアンサンブルで魅了した。

千住家の軌跡

芸術家三兄妹のコラボレーション

Mariko Senju
Hiroshi Senju
Akira Senju

千住真理子
デビュー50周年記念企画
千住真理子、千住博、千住明



前半 千住真理子、千住博、千住明によるトーク
司会：近藤サト
25年ぶりの「奇跡」！
千住家三兄妹のトークが実現！
後半 千住明：ヴァイオリンとストリングオーケストラの為に「彩霧」
千住明：ヴァイオリンとストリングオーケストラの為に「四季」
博の日本画の投影に
明の曲と指揮で、真理子が奏でる！
作曲・編曲・指揮：千住明 演奏：千住真理子(ヴァイオリン)、N響のメンバーによるアンサンブル

2025年5月20日(火) 18:45開演 (18:00開場) 愛知県芸術劇場コンサートホール

プラチナ席 10,000円 S席 8,000円 A席 6,000円 B席 4,000円 (全席指定・税込) 一般発売 2/6(木)

【プレイガイド】
アイ・チケット 0570-00-5310
【企画制作】ジャパニ・アーツ

ハーバード大学、ジュリアード音楽院卒
世界で活躍するヴァイオリニストが北歐の名門と共演
廣津留すみれ (ヴァイオリン)
デンマーク豊フィル
指揮：ヘンリック・シェーファー

2025.4.30(水) 19:00開演 (18:00開場)
愛知県芸術劇場コンサートホール
全席指定(税込)
S席 10,000円 A席 8,000円
B席 6,000円 U22 2,000円

2025年1月24日(金) 発売開始

City of Kyoto Symphony Orchestra
共に響き合う、京響
京都市交響楽団
第15回 名古屋公演
指揮 沖澤 のどか (京響常任指揮者)

PROGRAM
ウェーバー 歌劇「オリアンテ」序曲
ブラームス ハイドンの主題による 変奏曲 変ロ長調 op.56a
チャイコフスキー 交響曲 第5番 ホ短調 op.64

2025.6/26(木) 18:45開演 (18:00開場)
愛知県芸術劇場コンサートホール

プラチナ席 ¥7,000 S席 ¥6,000 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000 U22 ¥2,000

鈴木真貴子 ピアノ・リサイタル
2025.3.19 WED 18:45開演 (18:00開場)
電気文化ホール

第9回 全日本学生音楽コンクール
「ベストリスト賞」コンペティション
ファイナル
2025.3/23(日) 19:00開演
愛知県芸術劇場コンサートホール

桐朋学園大学卒業生による
第39回 新人演奏会
2025.3/29(日) 14:00開演
電気文化ホール

伝説ふたたび
The 4 Players Tokyo
2025.4.11(金) 19:00開演 電気文化ホール

奏でる人を聴きたい人へ 人と音を結ぶ
クラシック名古屋
052-678-5310
名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル1F

クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット 0570-00-5310
(11:00~16:00 ※土日祝休)
アイ・チケット 検索
お好きな時間にお好きな席を選んでクリック♪

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが丁寧に対応いたします。ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。